

2025年12月20日

保護者の皆さまへ

幼保連携型認定こども園こもれび 園長/坂本肇

## こもれびの生活発表会について

本日はこもれびの生活発表会にお越しくださり、誠にありがとうございます。

また、日頃より子ども達の育ちをあたたく見守り、こもれびの保育及び幼児教育活動にご理解とご協力をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。

生活発表会開演に先立ち、少しだけ私が今日のこの時間をどのように考えているかをお伝えさせてください。すでに12月1日のお手紙でもお伝えしておりますが、こもれびでは生活発表会を「特別な行事」ではなく、日々の生活の延長にある時間として捉えています。

練習を重ねて完成度を高めることよりも、子ども達が日常の中で育んできた興味・関心、そしてその時々のお気持ちを大切にしながら、「ここに立ってみたい」「やってみよう」と思える環境を整えるよう意識しております。時間をかけて練習を重ね、動きやセリフを揃えて指示を重ねていけばいわゆる「立派な発表会」をつくることも1つの方法として可能です。しかし、こもれびが大切にしているのはその完成度のために子ども達の遊びや生活の時間が削られていないか、その過程で子どもも大人も苦しくなっていないかという点です。

これまで多くの園で行われてきたように、練習を重ねて形を整えていく中で遊びの時間が少しずつ削られてしまったり、指示や練習が増えることで子ども達や先生達の表情が硬くなってしまう。また、子ども達が飽きてしまわないようにと活動にあえてブレーキをかけながら調整するような場面を何度も目にしてきました。

もちろん、練習を重ねる経験も子ども達にとって大切な育ちです。その一方で、それがいつの間にか「やらされる力」になってしまっていないか、「間違えないこと」や「正しくできること」が目的になっていないか、私自身が立ち止まって考える必要があると感じてきました。

ただこれは、先生達にとってはとても難しい取り組みです。練習をせずに子ども達の日常の姿を落とし込むということは、先生達が「何もしない・教えない・環境整備しない」ということではないことへの理解から始める必要があるからです。むしろ何を整備するか・どこまでサポートするか・どの場面で見守るかを常に考え続け、子ども達が安心して表現できるように環境や関わりを丁寧に整えていくことの難しさや重要性を感じながら今日を迎えました。

繰り返しになりますが、こもれびの生活発表会は“評価をする日”でも“結果を見る日”でもなく、子ども達と職員のお育ちの「通過点」を、保護者の皆さまと一緒に分かち合う時間となります。今日は、台本通りにできているかどうかではなく、「楽しんでいるかな」「我が子らしいな」と感じながらゆったりとした気持ちで見守っていただければ幸いです。

今日のこの時間が、日々の中で育っている子ども達の姿を保護者の皆さまと一緒に感じるひとときとなるようにと心から願っております。